

## 問題提起型広報について

行政が保有している情報のうち、まちづくりの課題や問題点、また、行政にとっては住民に知られなくても住民にとってはそれを知ることによってよりまちづくりに関心を持ち、地域社会に対する理解が深められるような情報等を積極的に住民に提供し、住民の問題意識を高める広報のこと。

出典：富野暉一郎『地方分権が進むと広報・広聴はどう変わるのか』2000 年

<<http://www.law.ryukoku.ac.jp/~tomino/chosaku/2001/chosaku4.html>> (アクセス:2012 年 11 月 5 日)

<産経ニュース>

### 広報なばり、全国コンクール初入選 「問題提起型」うれしい評価 三重

2012.5.8 02:03

平成24年度の全国広報コンクールで、名張市は7日、市の「広報なばり」10-3号が、広報紙部門(市部)で3席に入り、初入選したと発表した。東日本大震災の被災地を支援した経験を市内の防災活動に活(い)かしていく市民らの活動をまとめた内容で、市は「『問題提起型』の編集スタイルが認められてうれしい」と喜んでいる。

公益社団法人「日本広報協会」主催の全国広報コンクールは、広報紙やウェブサイトなど計5分野を対象とし、うち広報紙やウェブサイト部門は市部、町村部など4部門に分け、企画や文章、デザイン・レイアウトを審査のポイントとした。

前年度の県広報コンクール広報紙部門(市部)で特選を受賞し、県広報協会の推薦を受けた「広報なばり」の同号がノミネートし、広報紙(市部)部門に応募した59点のうち、入賞した。

市では他の自治体でみられるA4判ではなく、タブロイド判のサイズで広報紙を作成。毎月週4回発行しており、受賞した同号では、特集「地震に立ち向かう3つのキーワード自助・共助・公助」を企画し、市内で大規模災害が発生した場合にできることを市民や地区、行政の順にまとめた。審査会は「特集は3つのテーマに絞り、わかりやすく編集している。手際よくまとめた点が見事」と評価。

市広報紙担当の宮本誠さん(36)は「優秀な広報紙が多かった中、3席に選ばれてうれしい。今後もわかりやすい広報紙づくりに努めたい」、高嶋義典さん(33)は「市民アンケートを今後に活かし、また全国で入選を目指したい」と話していた。